

令和6年度第1回図書館利用者懇談会記録

名称	令和6年度第1回 図書館利用者懇談会
日時	令和6年7月10日（水）午後6時30分から8時30分まで
会場	北部地区サービス事務所 会議室
出席者	18人 内訳 利用者 9人 区側（図書館・事務局）9人 八雲中央図書館長、庶務係長、事業計画係長兼大橋図書館長兼緑が丘図書館長、資料係長兼守屋図書館長、サービス係長兼目黒本町図書館長兼洗足図書館長、貸出・予約係長兼中目黒駅前図書館長、事務局（庶務係）
懇談会次第	1 開会 2 八雲中央図書館長挨拶 3 図書館からのお知らせと意見交換 4 閉会
配布資料	1 アンケート 2 目黒区の教育 令和4年度事業報告書 図書館抜粋（5Ⅲ図書館）

主要な発言

1 開会

2 八雲中央図書館長挨拶

図書館長：日頃から、目黒区立図書館をご利用くださり、そして本日令和6年度第1回利用者懇談会にご参加いただきましてありがとうございます。この利用者懇談会は、図書館をご利用くださっている皆様と図書館の職員との懇談や意見交換などを通して、より皆様に親しまれる図書館づくりを進めていくということを目的として開催しているものでございます。区立図書館では、皆様の読書活動を推進するために、様々な取り組みを行っており、本日はその取り組みの一つとして、春の読書週間の取り組みを後程ご紹介させていただきたいと思っております。また、懇談終了後、こちらの大橋図書館の見学を予定しておりますので、お時間ある方はぜひご参加ください。

本日の懇談会が、皆様の図書館に対するご理解をさらに深めていただける機会となること願っております。どうぞよろしく願いいたします。

（図書館出席者紹介）

3 図書館からのお知らせと意見交換

図書館：今年度の春の読書週間において各図書館で実施した取り組みなどについて、担当係長からお話をさせていただきます。そのあと皆さまから図書館の取り組みなどについてのご感想やご提案、ご意見などを頂戴いたしまして、情報交換ができたかと考えております。発言の際は挙手をしていただき、主にご利用される図書

館名とお名前を頂戴いたしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

図書館：目黒区立図書館では、区民の方々の利用を促進して、読書活動を推進するため、目黒区立図書館基本方針の目指す方向性を踏まえて、様々な取り組みを行っています。令和6年度に図書館で実施した事業及び今後の実施予定などについてご紹介させていただきたいと思っております。

まず、例年4月23日から5月12日は読書推進運動協議会による子どもの読書週間とされ、各地で様々なイベントが開催されます。目黒区立図書館では、この期間中、目黒区立図書館基本方針で示されている「子どもたちを、本の世界にいざなう」という取り組みの一環として、各図書館で多くのお子さんに来館していただき、本に親しんでいただきたいと思いますと考え、おはなし会だけではなく様々なイベントを実施しました。主なものには、目黒区立図書館では初めてとなる「ぬいぐるみ達の秘密のお泊まり会」を実施しました。お子様からお預かりしたぬいぐるみを夜の図書館で写真撮影をして、イベント終了後、その写真を館内ポスターやパネルで展示するとともに、参加者へぬいぐるみ達が選んだ貸し出し用の絵本1冊と、お土産としてしおり、そして、簡単なお泊まり会アルバムをプレゼントしました。他には「読書の木を彩ろう」というもので、利用者の方から図書館で借りて読んだ本の紹介文を募集して、その紹介文を木の絵に添付して展示しました。さらには、スタンプラリーや工作会など、各図書館のスタッフが知恵を絞り、工夫を凝らしたイベントになったのではないかと考えています。詳しくは、図書館ウェブサイトのお知らせのコーナーに掲載結果を掲載しておりますので、ぜひご確認いただくと幸いです。

また、幼児や児童の図書館利用の促進を図ることを目的として、今年も夏休みイベントを実施します。めぐろ区報7月15日号に情報を掲載いたします。主なものを紹介しますと、八雲中央図書館で行う「図書館に本が並ぶまで、本を作って装備してみよう」というイベントは、参加していただいたお子さんに小さな本を作っていただいて、ブックカバーを貼るというものです。大橋、区民センター、目黒本町図書館では、「図書館クイズラリー」を行います。答えを探す過程で本を探したり、読んで調べたりすることに挑戦できるような仕組みとなっています。また、緑が丘図書館では「児童書保存庫をめぐるツアーとおはなし会」を実施します。他には、オリジナルサマリーを作成する工作会など、多くのお子さんに来館してもらって、子どもたちの夏の思い出づくりに役立てればよいと考えています。各図書館でボランティアの方にもご協力していただいて実施しているおはなし会や、春の子ども読書週間や、夏休みのイベントが、多くのお子さんや親御さんたちに認知されて、図書館に行きたいと思っただくことにつながることを期待しています。子どもに関する事業の紹介については以上です。

図書館：子どもの読書週間や夏休みイベントをご紹介いたしました。もともと読書週間は秋のイメージが強いと思いますが、秋の方はお子さんということだけではなく、広く大人の方もご参加いただけるようなイベントや事業をすでに検討中ですので、ぜひ楽しみにお待ちください。また近くなりましたら、紙の広報、それからウェブサイト、XやLINEでもご紹介してまいりますので、ぜひ、足をお運びください。

図書館：次に、各図書館で年間を通して行っているテーマ展示をご紹介します。月1回又は2ヶ月に1回等、様々なテーマを設定して行っています。通常、本はその分類順に並べてしまうので、いろいろな棚に分かれて配架されています。テーマ展示はそれを集めて、目に見える形で並べてご覧いただく、借りていただくことを一つの目的としています。普段は自分の決まっている著者やいつものテーマの書架があると思いますが、普段行かない本棚やテーマで本を探すということを通して、改めて様々な本やテーマがあることに気づいていただける取り組みにしていきたいと考えています。

例えば、「子育て」というテーマで本を並べようと思ったときに、システムで「子育て」を検索すると、4,000件を超える資料が出てきます。子育てと言っても、例えば社会福祉、幼児教育、しつけ、小児科、育児、離乳食、保育園というように様々な分類に分かれているので、なかなか普段、全部を一遍に見るというわけにはいきません。子育てという1つのテーマで様々な切り口があるということで展示をしています。展示は楽しい、嬉しい、面白い、いっぱい借りていただくというのも大事ですが、一方で区の施策の紹介や啓発の側面もあり、少し地味なテーマでも皆さんと一緒に考えたいと思うようなものも、展示するようにしています。

時期的なものも集めており、「ほたる祭り」のときは、蛍の本を集めたり、先週は新貨幣をテーマに、それにまつわる本や渋沢栄一・津田梅子の伝記を集めてみました。それから八雲で新しく今年の2月に作った健康医療のコーナーがあり、区内の医療機関の図書室と連携をして、そこに健康医療に関する本を置いています。「健康めぐろ21」という目黒区の取り組みがあり、今は健康寿命、禁煙をテーマに展示しています。先ほど申し上げたように、明るく楽しいテーマばかりではなく、一緒に考えていこうということで、9月は自殺予防月間で、図書館として「自殺」というその2文字は結構重たいので、いきなりそれを出しても借りることはつながりにくいと思いますので、心身のリフレッシュをテーマに展示を計画しています。

中目黒駅前図書館では働く人を応援するコーナーを約3年設けています。2ヶ月か3ヶ月おきにテーマを決めて、問題解決方法、職場での人間関係、職層ごとに苦労していると思いますので、それらを汲み取る本なども置いています。先日までは知的財産の本を集めていました。今は「失敗しても大丈夫」というテーマで、失敗したことを生かす本を並べております。もう一つ、展示に関するご意見で、展示終了後、「この前ここにあった本を借りたい」と言われた時に、タイトルが分からず困った事例が複数ありましたので、リストにして、ウェブサイトで後から確認できるようにしていますので、ぜひご活用いただきたいと思います。

多くの方にご来館いただけるよう、先ほどの子どものイベントやテーマ展示等の企画のほか、今後も様々な取り組みをしていきたいと思いますので、ぜひ今日ご要望を聞かせていただけると大変参考になってありがたいと思っております。

図書館：それではただいま図書館の取り組みについてお話をさせていただきましたが、もしご意見やご提案があれば伺いたと思います。

参加者：私は駒場に住んでおり、以前は30分程歩いて来ていましたが、年齢を重ね

るところまで歩くのは難しく、バスを乗り継いで来ます。以前世田谷区では駅にボックスを置いて返却するという新聞記事を見たので、区役所に申し込んだのですが無理で、関西の友人は、返却は近くのスーパーのボックスに返却するのでとても便利になったそうです。そのような取り組みを考えていただけたら嬉しいです。

図書館：ブックポスト、図書館以外の場所に設けられないかというご意見は時々区民の皆様からいただいております。図書館にとってブックポストは重要なものだと認識しており、設置場所や回収方法等、様々検討する必要があります、すぐにできますという状態ではありませんが、私どもも緊急の検討事項と思っており、検討しておりますので、お時間をいただきたいと思います。

参加者：私ども絵本の読み聞かせを学童、児童館、そして保育園で行っております。特に保育園の小さい子は、小さい本よりも大型の絵本が喜ばれます。保育園では、二つの学年合わせて40人から50人近くになり、小さい普通サイズですと、子どもにはあまりインパクトがなく、どうしても大型絵本を使うことが多くなります。今、目黒区では大型絵本を借りる場合、団体カードで一度に2冊まで、延長不可です。私どもは、その保育園で毎週20分から30分行っており、一番多いときで4冊大型絵本使うこともあるため、現在の目黒区の貸出条件ではとても回りません。私どもはもう目黒区は諦めて、品川区、渋谷区等、他区の図書館に行って、大型絵本を借りてきています。ご存知だと思いますけれども重い大型絵本を2冊、3冊なんか借りたらとても大変です。そんな状況ですので、なるべく大型絵本を多く貸していただきたいと思います。世田谷区は個人カードで15冊まで延長1回可、渋谷区は個人カードで30冊まで延長1回可、品川区も個人カードで20冊まで延長1回可、港区も個人カードで15冊延長1回可、各区でそれぞれ違いますが、区民の方どうぞ来てくださいと、すごく積極的に区民にオープンして下さっています。せっかく目黒区におりますので、目黒区で借りられるのがベストです。わざわざ品川区や港区まで借りに行く必要があるのかと思いつつ走り回っておりますので、この大型絵本の方も少し考えていただきたく、お願いいたします。

図書館：大型絵本につきましては、今図書館でやっているおはなし会でも使用しているところもあり、その希望が重なる等、冊数の問題もあって今団体に2冊という形で運用しております。いつか他区のようにできるかはお約束できませんが、頑張っていきたいと思っております。

参加者：他区がこれだけ許可しているところ、なぜ目黒だけ2冊で、しかも団体カードを作ってくださいとおっしゃっているのか、余りにもハードルが違いすぎるのではないかなと思います。

図書館：他区の状況は把握しておりませんが、目黒区としては大型絵本については目黒区の図書館のおはなし会で使うのがメインで考えていると聞き及んでいます。

参加者：私この大橋でやっているおはなし会のボランティアのもので、大型絵本を使わせていただいておりますが、そんなに他のところと重なることはないと思うので、もっと借りられるのではないかと思います。八雲で赤ちゃんおはなし会が2回ぐらい入っているとしても、使うものも違うと思います。そういう意味も含めて、数の

問題に加えて、もう少し種類を、大型の絵本はほかにもいろいろあって使いたいと思いますが、ないですね。目黒区さん、貧しい悲しい状況という言葉が、今、当たってしまうかもしれません。世田谷区は、人口も多く活動が盛んな団体も多いでしょうから、目黒区は子育てを掲げているので、そこでも張り合ってもいいと思います。他の大人の本もすごく大事です。予算配分が大変だと思いますが、少しずつ増やして積み重ねていくと残っていくものなので、そういう意味でとらえていただけたら嬉しいと思っています。よろしく願いいたします。

参加者：絵本の読み聞かせのボランティア活動をしており、大型絵本のことについて、お聞きします。活動を始め、絵本を選書するのにたくさん本を読む必要がありますので、とても助かっています。緑が丘図書館は特に児童書が多いとありましたので、利用したいと思います。私は区民センター図書館を使うことが多く、ない場合はすぐ取り寄せてくださり、とても感謝しております。ただやはり大型絵本につきましては、1ヶ所の保育園で、3クラス、月3回、延べ人数子どもたちの数が100人にはなるので、どうしてもやはり数が必要で、このままでいけばちょっと目黒区の図書館使うのは無理なのかなという気持ちになっております。

参加者：最近、私の友人が体験した例についてお話します。目黒区の住宅政策について調べようと洗足図書館に行きました。友人はレファレンスコーナーが分からず、貸出カウンターで、探したい内容を伝えたそうですが、そこでは全然分からず、レファレンスの案内もなく、目黒区住宅マスタープランの本体はあるか聞いたら、うちにはないと。近くの図書館はどこかと聞いても分からず、地図を持ってきてこのなかのどこかでしょうみたいな言い方をされたそうです。もう一度聞いたら、八雲ならあると言われて本人は自転車で洗足から八雲まで行ったのですが、なぜ最初にレファレンスに案内してくれなかったのか、貸出カウンターで受けて八雲にあると言ったものの、なぜ、急ぎでなければこちらに取り寄せるということを、教えてくれなかったのでしょうか。それから、ちゃんとデータを調べずに「八雲ならあるでしょう」みたいな形で答えたけれど、もし貸し出されていたらこれでいいのか、こういうものなのかと言われてました。

もう一つは、先の友人が利用者懇談会は、図書館の職員だけでやるものではなく、利用者も困っていることを言っていくべきだろうと言っていました。利用者懇談会で話すと、職員と一対一で話すのではなく、他の方からもいろいろ聞けるし、みんなの参考にもなります。

一つ残念なのが、利用者懇談会が申し込み制ということです。ある友人は来たいと言ったけれど、申込締切後だったので来られませんでした。また、別の利用者懇談会によく参加しておられた方が年配となり、一人での外出が難しくなったのですが、たまたま今日ご家族が送迎可能になったけれども、当日なので参加できず、もういかなれないと思うけれど、よろしくねというような話がありました。

利用者懇談会は今までは、当日、どなたでも参加できますという決まりだったのですがコロナで、定員の半分しか入室してはいけないため、令和2年7月の利用者懇談会から申し込み制になりました。今はもうマスクしている人も少なくなりましたが、

今後もこのままでいいのか、先のお2人の方も参加できてお話を聞いたのではないかと非常に残念に思っています。先ほどからの報告で、多くの方に来館いただけるようにと、色々なことを考えて取り組んでくださっているのだと思いますが、その反面で図書館からシャットアウトするようなことがあるというのは残念で悲しいと思いました。もっと図書館と利用者をつなげて、また来てみようかなと思えるような、対応をしていただけないかなと思いました。

参加者：区民センターの貸出カウンターの方は、担当していただいた方によって言うことが違うことが多く、統一された研修を受けてないのではないかと思います。話は戻りますが、大型絵本について、目黒区だけが団体登録なのは、おかしいと思います。改革していくのは大変なことだと思いますが、時間はかかっても、まず個人登録できるように、そして2冊ではなく、他区と同じように延長もできて、絵本を借りられるようにしていただきたいと思います。検討しますとか、検討中ですとかいう言葉ではなく、実際に進めていただきたいと思います。

参加者：提案したいことは、各図書館にスペシャリストを置くつもりはないでしょうか。司書さんなのかもしれませんが、その中でも、教育されているような方。次々と出版される新刊本に対しても、貪欲に学習をしているような方や、絵本や児童書はまた別のスペシャリストさんがいるといいんですけど。そういうふうな形のサービスに長けた方や人格も含めて、育成するというのはいかがでしょうか。

図書館：去年の読書週間に「あなたのためのブックリスト」という取り組みを行いました。件名や著者名というテーマで探すのではなく、例えば、失恋した時に読む本、大切な人を亡くした時に読む本、最後にどんでん返しがある本、人の死なないミステリー等いろいろお題をいただき、それに関する本のリストをご提供するという取り組みをしたことがあります。読書週間の間に探してご提供できるかと想定して20名を募集したところ、三、四日でいっぱいになってしまいました。できればスペシャリスト一覧があって、維持できていくような体制ができれば、非常に面白いと思いますが、先ほどのお話は実は非常に難しく、その者だけが答えられるような回答というのは、私どもも悩みます。例えば、図書館の業務として、区民の方に押しなべて提供するというレベルをどうするかというのが一つの課題だと思っています。たまたまその読書週間のイベントで、こんな本知っている、あの本読んだというのだったらいいと思いますが、日頃の業務の中で、何々について知りたいと言った時に、この人は当たりだった、この人は外れだったというのは、区の図書館としては問題です。詳しい職員が、その人の知識だけで答えてしまうのは、レファレンスとは言えないと考えています。

図書館：区の職員も委託のスタッフも同じ職員という形で図書館で仕事しておりますので、今のお話は重々受けとめさせていただいて、改善なり、指導なりさせていただきたいと思います。本当に今回はお話を聞くことができ、様々な改善案のご提案もいただき、次のイベントや行事の糧になったと思います。ありがとうございました。

コロナ以降事前申込の定員制となった利用者懇談会については、開催時期や場所、時間も検討させていただきたいと思います。次回は決まり次第、区報やウェブサイト

でご案内させていただきたいと思います。

参加者：今まで新刊や新聞、雑誌に出た本を申し込むと、どんな本でも用意して下さいます。ここにはないときには、取り寄せて用意して下さるということ、本当に図書館はすごいところだなと、うれしく思います。

図書館：新刊で見ますと、発売日が出版社のウェブサイトや、新聞広告に出たりした時点から、目黒区にお住まいの方からリクエストという形で承っています。購入するかどうかは、区の基準に沿って選んでいます。東京都内の図書館同士で貸し借りをするという仕組みがあり、23区でも多摩でもどこかにあれば、少しお時間をいただいて、取り寄せてご用意しています。都内の図書館にない場合でも、東京都以外の図書館から取り寄せたり、国立国会図書館から取り寄せたりする場合があります。こういう形でご用意できますというお話も相談カウンターで承っていますので、気になる本がございましたら、気軽にお尋ねください。

図書館：今、国立国会図書館の話が出ましたけれども、あちらのデータベースについて、皆様ご存知でしょうか。今デジタル化が進んでおりますので、デジタル資料という形でウェブサイトを通して、ご覧いただけます。

目黒区でも電子媒体でデータベースの公開というサービスを行っています。基本的に電子媒体で見える場合は、八雲中央図書館でデータベース専用のパソコンを設けております。図書館で座席指定の予約をしていただき、そちらのパソコンを使いまして閲覧できるようにしております。インターネットを通じて、国立国会図書館の例えば貴重書をデジタル化したものを見ることができ、新聞のデータベースについては、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、また地域の新聞として中日東京新聞も見られ、過去の記事のバックナンバーなどもご覧いただけます。また国立国会図書館で、歴史的音声の公開もあり、八雲中央と大橋の2館で聞くことができます。

図書館：八雲中央図書館ではコピーは、A4、1枚10円で承っております。資料の写しをご希望の場合は職員にご相談いただければ、コピーさせていただきます。

国立国会図書館の歴史的音源では古い音声資料について、昔のレコードなどがデジタル化されています。ヘッドホンを用意しており、昔の歌謡曲も聞くことができます。いろんなラインナップがあって面白いのではないかと考えております。機会がありましたら聞いていただければと思います。

参加者：大変ためになるお話をありがとうございました。普段緑が丘図書館を利用させていただいております。ふるさと納税の寄付金を、テーマを決めて購入されていましたが、目黒区全体で同じテーマなのか、それとも予算が各館に振り分けられて、それぞれの館でテーマを決めて購入されたのか、去年は確か子育てや育児がテーマで、今年は何か学ぶというような感じでされていたので、来年そのふるさと納税が図書館に配分されるのであれば、次のテーマは何かと期待をした次第です。

図書館：こちらについては毎年資料係で区内全部同じテーマを決めて、本を購入して、各館で閲覧・貸出できるようにしております。テーマは職員会議でアイデアを出して、そこで何が一番皆さんに訴えられるか、図書館として蔵書として加えたいか等、議論

して決めているところです。6年度については、これから決めてまいります。

図書館：ふるさと納税なので、毎年いただくお金の額が変わっています。令和5年は本当に皆様からの寄付金が多くて、500万円まではいきませんでした。今までの最高額を頂戴いたしまして、購入する冊数も大分増えました。来年もご寄附いただいた額で買えるだけの本を選定してまいります。ただ、本も年々値上がりしておりますので、そういう状況を鑑みまして、よりよい本を選んでまいりたいと思います。

参加者：ふるさと納税でいただいたものの返礼について、教えてください。

図書館：受け皿は全部目黒区で一つになっており、「図書館の本を充実させたい」という項目にチェックを入れていただいた方の分が、指定寄付金という形で、図書館に配分される形になっております。

参加者：過去にもお伝えしていますが、懇談会をこういう形ではなく、館ごとに、もっとカジュアルに今利用している人に声をかけて、もうちょっと具体的な要望を集められるようなものをついたらどうかといつも思います。図書館に来る人はみんな何か要望を持っていると思います。

図書館：館ごとに開催するのは、開催場所や時間のほか、現在分館には職員を常駐で配置せず、委託のスタッフしかおりませんので、難しいところもございます。ただ区内には8館ありますので、なるべく図書館に近いところの会場を選んで順番に進めていきたいと思っております。

司会：よろしければ一旦懇談の方は、これでおしまいにさせていただきます、大橋図書館にご案内させていただきたいと思っております。

(大橋図書館見学)

4 閉会

以 上